

研究主題

「主体的・対話的で深い学びを通して 教科のねらいに迫る授業づくり」

～国語科「読むこと」の文学的な文章を通して～

第4学年 国語科学習指導案

単元名 作品に込められたメッセージを想像し、感想や考えをもとう

「一つの花」

■単元の目標

- ◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている（思C（1）オ）
- 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。（思C（1）エ）
- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。（知（1）オ）

■読むことに関するねらい

構造と内容の把握

- ・人や物、時間場所などの物語の全体像をつかむ。
- ・場面の対比を捉える。

精査・解釈

- ・強調されている言葉や中心となる文を見付け、ゆみ子への父母の思いを想像する。

考えの形成

- ◎物語を読んで理解したことに基づいて作品に込めたメッセージを想像し、感想や考えをもつ。

共有

- ・自分の考えと友達のを比較し、一人一人の考え方や感じ方の違いに気付く。

■児童の実態

本学級の児童は、7月に「白いぼうし」において、行動や会話などの叙述を基に登場人物の気持ちの変化や性格、情景について場面の移り変わり結び付けて想像した。学習の最後には教科書の「山ねこ、おことわり」を読むと、「動物が出てくる」や「タクシーで不思議なことが起こる」等の共通点を見つけることができた。その根拠を示す際には、必ず叙述や挿絵を基に発言するが、そこから自分がどう思ったのか、どう感じたのか等自分の考えや感想を言う児童は少ない。

そこで本単元では、「一つの花」で読み深めた観点を生かし、「すみれ島」と関連させながら共通点や相違点を見付け、作品に込められたメッセージを想像し、自分の考えや感想をもてるようにしていきたい。

■言語活動

今回の教材は「戦争」と「平和」のメッセージ性が強いことから、叙述を基に想像を広げ、自分の生活や経験と比べて考えをもちやすいと考えた。「一つの花」を読んで理解したことに基づいて、同じ作者の「すみれ島」と読み比べをすることで、作品に込められた「命を大切にする」「家族や友人への思い」等のメッセージを想像し、自分の考えや感想をもてるようにしていきたい。

深い学びの視点における比較・関連付ける力の育成には、読み比べをすることが有効であると考えた。児童は比較という基本的な思考を活用して、重要となる言葉に着目し、作品と作品の共通点を自然と考えるからである。児童が無意識に行っていることを言語化し、一つの学び方として価値付けていきたい。

■単元計画（全9時間）

第1次 学習課題の設定

- ① 「一つの花」を読み、初発の感想を書く。
 - ・「一つの花」の題名からどのような物語なのかを想像する。
 - ・「一つの花」を読み、心に残ったところとその理由を書く。
- ② 詳しく読みたい観点を絞り、学習計画を立てる。
 - ・予想される身に付けたい読みの力
 - 《登場人物の気持ちを想像する力》
 - 《物語の設定（時代）を理解する力》
 - 《作者のメッセージを考える力》等

取組①

単元を通して、詳しく読みたい観点を絞ることで、身に付けたい読みの力を共通の学習課題として設定する。読み方を意識して学習できるようにする。

第2次 読み取り・読み比べ

- ③ 物語の設定と全体像をつかみ、内容の大体を捉える。
 - ・登場人物 ・中心人物と対人物 ・時代 ・季節 ・場所 ・場面 ・ダッシュ
- ④⑤ 詳しく読みたい観点を基に、読み深める。
 - ・十年前と十年後の違い ・父との別れのシーン ・父の思い
- ⑥ 強調されている言葉や中心となる文を見付け、ゆみ子への父母の思いを想像する。
 - ・「一つだけ」の書かれ方の違い ・コスモス一輪に込めた思い
- ⑦ 「すみれ島」を読み、「一つの花」との共通点や相違点を交流する。
 - 【共通点】・設定（戦争） ・花 ・結末 ・戦争に行った人は帰って来ない
 - 【相違点】・中心人物 ・島
- ⑧ 単元を振り返る。
 - ・初発の感想と比較しながら、身に付けたい読みの力がどのくらい付いたのか振り返る。

第3次 読書会

- ⑧⑨ 平和について考える本を読み、感想を伝え合う。
 - ・紹介カードやPOP、帯などまとめ方を考える。
 - ・考えたことや感じたことを伝え合う。

読み比べ

■学習指導過程（7/9 時間）

- 1 前時を振り返る。
 - ・お父さんの思いについて考えた。
 - ・「一つの花」の題名の意味を考えた。
- 2 「すみれ島」を読んで感想を交流する。
 - ・また戦争の話で悲しかった。
 - ・「一つの花」と似ているところがたくさんあった。例えば、花が出てくる場所。
 - ・本当にすみれ島という島があるのかな。

・前時の学習を振り返り、読みの観点を意識して「すみれ島」をできるようにする。

取組②

「一つの花」を読み深めた上で同じ作者の作品を読み、作者の意図や表現に気付けるようにする。

- 3 「一つの花」と「すみれ島」の共通点と相違点を交流する。

【共通点】

- ・戦争についての話だった。（物語の設定）
- ・花が使われているのが一緒だった。（物語の設定）
- ・最後は花でいっぱいになっている。（物語の展開：結末）

【相違点】

- ・中心人物がない。（中心人物） ・季節が違う。（物語の設定）
- ・題名がすみれの花ではなく、島になっている。（題名）

- ・「一つの花」で出た読み観点や前時での学習を振り返り、作品を比較しやすくする。
- ・交流を通して、読みの観点が広がるようにする。
- ・「一つの花」と「すみれ島」の共通点や相違点分かるように板書する。

- 4 本時の学習を振り返る。
 - 作者が作品に込めたメッセージとその理由について考える。
 - ・平和な世界になってほしい。なぜなら、平和について考えてほしいから。
 - ・自分たちがどれほど恵まれているかももう一度考えてほしい。なぜなら、昔のことを何も知らないから。

・2つの作品の共通することから、想像することで作品の主題に迫る。
◇2つの作品から感じたことや考えたことなど自分の考えをもっている。（発言・ノート）

取組③

「自分はどう思うか。」と、振り返ることで自分の考えをもてるようにする。

・・・学習内容と活動

・・・指導、支援

◇ 評価

教師が主体的・対話的で深い学びの視点を明確にもち、児童に三つの資質・能力を育むために授業改善を行っていけば、教科のねらいに迫ることができるであろう。

主体的・対話的で深い学びの視点

- ① 児童が学習のゴールイメージをもっている。
- ② 児童が友達と必要感をもって対話している。
- ③ 比較・関連付けてより深く理解している。

本時における具体的な児童の姿

- ① 作品に込められた思いについて、自分の考えをもとうとしている。
- ② 友達の考えと比較し、一人一人の考え方や感じ方の違いに気付いている。
- ③ 作品の共通点や相違点を見付け、自分の考えをもっている。

三つの資質・能力を育むための授業改善の取組

《単元の導入の工夫》

- ① 詳しく読みたい観点を絞ることで、単元を通して身に付けたい力を明確にする。
 - ・初発の感想から読みの観点を分析・整理し、学習課題を児童と設定する。文学的文章の読み方を言語化・焦点化することで目的意識をもって読み深めることができるようにする。

《学習計画の工夫》

- ② 同じ作者の作品を読むことで、作者や作品の理解を深める。
 - ・違う作品に触れることで、強調されている言葉や中心となる文を見付け、共通点や相違点を意識して読み深めることができる。重要な語句を可視化し比較・関連付けることを通して、作品に込められたメッセージを想像しやすくする。
 - ・2つの作品の共通点・相違点を見付けることを通して、自分なりの考えをもったり、思考を働かせたりする。さらに、友達との交流で一人一人の感じ方や考え方に違いがあることに気付くことができる。

《振り返りの工夫》

- ③ 「自分はどう思うか」評価読みの観点で振り返ることで、自分の考えをもつ。
 - ・学習の振り返りに、「自分は～だと思う。なぜなら～。」と、自分の体験や既習の内容と結び付けて自分の考えをもてるようにする。
 - ・単元の終わりにはどのくらい作品の理解が深まったか、どのくらい単元で設定した目標に近付いたのかを振り返り、自分の考えを再構築する。次の学習への目的意識や意欲につなげる。